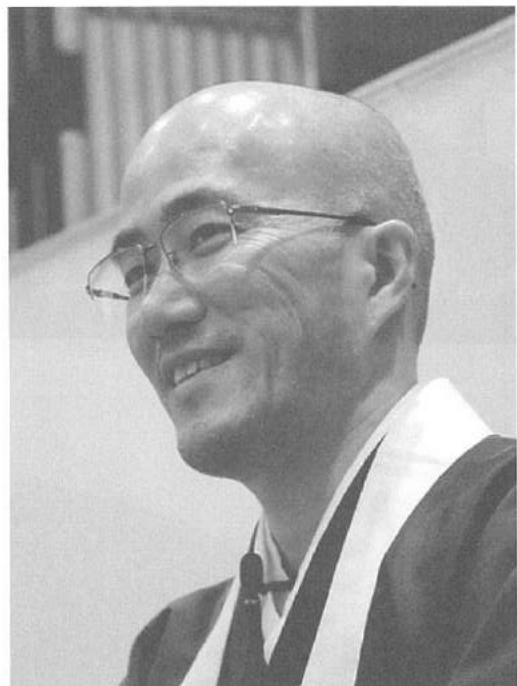


真宗大谷派
高徳寺通信



佐野 明弘
先生
(加賀・光闘坊 住寺)



『お寺
～伝わられた祈り
の場～』

高徳寺 報恩講

法話スペシャル

2014. 10.18 (sat)

お寺

伝えられた祈りの場

こんばんは、ようこそお参りくださいました。

本日はこの報恩講をお迎えするにあたってですぬ、ご住職の方からお寺と云う「場」について話してもうえなかこと云ふことで、そういう題をあげてくださいと頼まれましてね、ちょっと困ったんです。それで『伝えられた祈りの場』についてふうにしたんです。皆さんこの言葉を聞いて何か思われますか？ 变な言葉だと思う人いませんか？ ちょっとひかかるなアっていう人いますか？ おうれぬですか？ 手挙げにくいかな。ご住職は咄嗟に「祈りですか？」って、ちゃんとイヤそうな…(笑) 反応がありましてね、まあそのことも含めてこの題にしますってことだ

したんですね。ちょっと今日は間に休憩を取ろうと思つてますので、このことをお話しします。

一つは、現代といつは祈りの失なれた時代だなやといふことを感じております。祈ると云うようないふことを…まあ失なれた場所もですけれども、祈るよつは場所、あるいは人間の中に祈るよつはことが無くなってきたなや…ということがあります。それが一つ。それからもう一つは、祈りといふ言葉自身、ご住職さんが引っかかるたっちゃんのは、真宗の教説をだいぶ聴いてますとね、大抵、この祈りっていつ言葉はあまり使わなっていつことが分かると思うんですね。それをわざと使う。そこからどういう問題があるのかっていうことです。この2点です。では、その祈り、していつ言葉についてですが、これを最初にお話をしました。実はこのお念仏と云うものは、呪文ではなべの字と云うことで、30年程前に家永三郎、という人、この人はかなり有名な方ですね。教科書裁判など、そっちの方面では非常に大事な方だなあと田じつておっしゃけど、もう一方でね、念仏は呪文だということを書いてね、そして親鸞聖人という人も、せっかくあるここまで宗教的なね、

思索を深めていたのに、やっぱり念佛を捨てられなんだと。信心一本という所まで行ったのに、やっぱり口念佛の念仏を捨てられなかたと言つて、そういう論文を出されたんですね。それに対して、曾我量深先生やら、いろいろな先生が加わって、大いに議論があつたんですね。そんなことが30年前にあつたんですね。念佛は呪文ではないのかと。呪文ではないとするといつたい何なんだとか。どうですかね。要するに、お念佛をするとしたゞよつて…祈る、祈るつて、とも祈禱とかいう場合にはですね、たいてい何を祈るかって言つたら、自分たちの都合を祈るんですね。何か祈禱してもらつとか。祈禱するお寺はいづれあります。禅宗系統は大抵祈禱します。禅宗は座禅だけしていふのが本来ですが、毎朝祈禱の文を読みます。特にはっきりと「消災厄」というものを毎朝、3回程くり返して読むんです。呪文については、ほとんどがインドの言葉をそのまま音を当ててるので、読んでても絶対に意味が分からぬんです。漢字を見ても、意味が分かるような程度で頭を衝かせてくるトコトコじや、呪文は効かないって言つたんですね。(天笑)

文は効かないんだと。もつと心とぬ、言葉が一つになれるような、一番短かい呪文っていうのは…真宗にもこの言葉があるので、紛らわしいんですけど、全然違えですね。これは、「マントラ」って言います。その言葉を使って自分の願いごとを成就しようとすると、どういう形で祈禱して、呪文を唱える訳です。これ禅宗でも毎朝やります。「ナムサマンダーゴトナン…」忘れましたね。(笑) 本当に。忘れるんですね。もう、うむうむですけど…。般若心経の最後にもその呪文があります。「羯諦、羯諦、波羅羯諦、波羅僧羯諦、菩提薩婆訶」あそこが真言になつていて、そこだけが善導大師などが虎に襲われそうになつた時にあれを唱えてたら、虎がすさまじくちやうて帰つて行つたつちやつんですね。喰り切れなんだって。ですから、お正月に大般若六百巻をお坊さんが三日かけて読むんです。見たことありませんかね。

禅宗のお坊さんが集まつて大きな声で「だー、はんにやあらー、みーたー」と言つて、お経本を「だー、て、こうやるやつ」読んでおられます。(天笑)

その時に般若經典群が五百巻ある訳ですけど、それの一一番の真髓は般若心經で、それのさうに真髓は、「羯諦 獬諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆諦」っていふ所なんです。だからあそこだけずっと言つてます。それで読んだことにするんです。(笑)簡単でイイですね。五百も六百もある必要はないですよ。それだけあれば良いんだ、本当はね。まあ、ヒンドーこと言うとバチが当たるから…仏様のあの、さういう呪文です。あれは大般若を読んで何してるかって言うと、この国や皆が幸せありますようにとう祈りをしとるんです。そう聞きました。ですからこの「消災火呪」、いつのもの、「ナムサマンダー…」ってはじめりますけど、インドの言葉ですから、今、訳すことが出来る訳ですね。で、訳したのを見れば書いてあることが分かります。何が書いてあるかっていうと、火災や地震やそういうのがありますようにって書いてあるんです。それを呪文として読むのである、インドの言葉そのもので読んでね、それを願う訳です。ですから大抵祈禱をお願いする時にはね、自分たちの都合をお願いする訳です。お医者さんへ行つても治らせる病氣をなんとかしてくればかね。どうしても困ったことがあると、その

ことがなんとかうまいこと行きますようにとかね。そういうものの中に、お念佛も入るんだろか? ちゅうこと。
南無阿弥陀佛 というその言葉…。南無阿弥陀佛も、南とか無ことか、そういう意味じゃないでしょ? ご存知ですかね? 時々聞かれるんです、今でも。「南に無」という意味ですか? 「って聞かれることがあります。あれは南が無いのではなくて、音写というものです。音を…日本でしたら今はカタカナでね、外来のものをそのままカタカナで表記するのと同じ様に翻訳しようがないものはね、その音の言葉を音だけ字にして、その意味は別に説明しないと分からぬ…。」
ねえ、例えば「天ぶら」はアメリカ行くとも、他の外国行くとも「テンブラ」でしょ? 「あれ、他の国にかかるんですね。で、「テンブラ」って言っておいて、これがそれだと教えないと分からぬもんです。ね、だから訳せば、「向こうにあるものだ」たう向こうの言葉に訳せる訳ですね。ですから「ナム」って中国でその言葉を音写する時、中国ではカタカナが無かったので、漢字の音をあてていたんですね。それで「ナーム」っていう言葉は、南っていう字で、「ムー」っちゃうのにには、無と「う字をあてた。そういうことであると。そうすると、呪文とか、マントラっていふのは、そうやって出来てるんで、翻訳

しない方が良い。音だけを伝えた方が良いんだと言つては、こゝからはあまり意味が分かるといふうう分別が起つてゐ、効き目が悪くなるからいかん…。(笑)いや、本當です。効き目がねえ、いろいろあるんですよ。あの、「讀經」って言つた時には、これは經典をちゃんと見て讀む。で、「讀誦」って言つた場合には見せいで讀むのが本當なんです。經典讀誦って言いますけど、本来はすべて暗記しなければいけません。禪宗で修行した時は絶対に全部暗記でした。朝40分も50分もかかる長いお勤めがありますが、その間中、法華經から、いろいろなお經を読みます。そしてサンスクリットの言葉で出来たもの何種類か読みます。それを見て讀んでいませんか?と聞かれています。とにかく、覚えて、暗記して、その言葉と自分とが一つになるくらいまで。そうこう讀誦つづつ一つの行としてね、心を一つにする行として讀誦つてことだされました。ですかうとうふつて暗記してやうねばならない。そしてそれを読む時に心を乱さない、一生懸命讀むと。そういう一つの行を通して、効き目を期待するんですね。私自身もその禅



宗の僧侶の時にですね、この方がたがん一般には解かりやすくて良いんだろうな?と思つてますが、今讀じだお經を亡くなつた人の靈に手向けて、その靈が慰められまつように、そして成仏しますように、いう言葉が最後につきます。はつきりと書かれています。その方が讀んでもらつた時に良さそうですか?この辺もね、よくよく確かめていかないとけないんですよ。私自身その禪宗の修行の時に一番最初に困つたのはお經を覚えた。じゃあそろそろ小僧の修行をする…小僧って言つても二十歳過ぎてる小僧ですけどね。一休さんみた、にかわいらしい。その小僧の時にお風呂の焚き方やご飯の作り方とか、いろいろ習うんです。そしてお經を習うて、覚えた頃にお参りに行きなさいと。檀家さんの所へお参りに行きなさい、て言つれてお参りに行くんです。そうするとそこで般若心經やうを唱える訳ですが、私の後でおばあさんが一生懸命手を合つせてます。そしてお經を振り向けて、亡くなつた〇〇の靈に手向けて、その人も、それから諸々の人々も成仏しますようにして、そういうことが書かれている。ちょっと想像してみてください。皆さん正信偈でお勤め

します。読めますよ、正信偈。どこの家に行つてお参りした時に、後で手を合はせられたらどうですか？なんか、ちょっとこれで良いのかしら？と思ひませんか？しかもそれでお布施もうたりしてね。ちょっと想像して、ただだと解かるかなと。なんとか…どういうことなんだろうなア？と思わずに、おれなアと思つうんです。禪宗にいた時は読んだあとに、このお經の功德をこういうふうに使つて、こう書いてある訳ですね。ところが私は読んでおつて、後で一生懸命拝んでるおばあさんを騙してんじゃないかと、詐欺じやなアかなと。なぜそう思うかって言いますとね、どうも自分がそれを信じてないんです。まず、だいたい、靈で何だろうなア？と。後のおばあさんはきっと信じてるに違ひない。そしてその靈を成仏させるって言つけど、この私の読み方で、こんな根性で読んで、成仏出来るんやろかーと。私が読んだりかえつ迷つてしまふんじゃぱいかとかね。いろいろ悩んでね、すごく苦しくなつてきましてね、それでお寺へ帰つて「私は読むのが嫌です」と言いました。そしたら、読まんといつて。別に読むのが修行じゃないから、お参りが修行じゃないから、座禅修行だからやらなくてイイって言ってくれたんで、ホッとしてあつたんですが、一月も経たん

ちに「行け」つちゅうんです。行かなくトイって言ったじゃないですか？ってお前は優しさというものがなアのかつて。「他の人の気持ちを少しでも、嘘でも良いから机上げてやれんのかつて。嘘でもイイからうつて…そう言ったかな？ そう聞こえておるんですね。今は、「これは方便と言うのだ」と。嘘でもイイから、それを一回読むと、そのおばあちゃんの気持ちが安らぐんだから、やってあげたうどうやつて。うですかア」と私。でもそれは本当に自分が読んで、自分のこんな読み方で、こんな心で読んで、それで本当に助かるとは思ひえん。それで後のおばあさんは、そろそてもう来る坊さんが来てくれたと思つてるんだつたら、やっぱり詐欺じやなアかなアと思ってですね、ずっと悩みが尽きなかつたですねエ。真宗のお参りは、そういうお参りでないんです。じゃあどんなお参りやつちゅうとこれが又、ややこしいんですね。だからお念仏もいつのまにか私たちが自分の人生が都合良くなつてくれば、かと、そう言って唱えてるのが関の山ではないかと家永三郎と二人がね、言つたんです。ただ習俗的にその言葉にさて少しでも樂になるということを願つて、いるとしたうそれは呪文のよさなもので、本当の意味での宗教的なものを、もう失うるではなアかと。現在の念仏は本当の宗教性を失つて呪術的になつているではないかと。



親鸞聖人の言われたよくな、そういう深い信仰と
いうものを失っている。その原因は親鸞そのものに
あるんだって、こうひうかが親鸞が最後まで口称の
念佛を捨てなかつたからだと。信心ひとつと言ひな
がら、口称の念佛を捨てなかつたからだと。こうひう
ことをね、仰て大論争になつたんですね。ま、いす
れにしろ、この祈りといふことの中には必ず人間の
願いを成就するために仏法や仏法でないもの
のを含めてね、祈祷する場合、あるいは祈る場
合には、何か手段を用います。^{場所と手段を}お百度参りとかね。
用いて、祈りの行をします。お百度参りとかね。
ご存知ですか、お百度参り。神社とかに百日願
い続けるんですね。やつたことがありますか……？
そんなに深い願いを持ったことがないですかねえ。
それと、そんなことしたって駄目やと思ってますよ
ね。どうかですね。でも私のところ（光闇坊）では道
路から100mくらい奥に入つて、パッと周りを見
ても家が見えないんです。林に囲まれててね。そ
して、ちょうど15年前、長女が産まれる時にね、
夜中に産氣づいたので病院へ行こうと、タクシ
ーを寺へ呼んだんでね。まだ運転が出来なかつた頃で。夜
中の2時にタクシー

が来て外へ出たう、お寺の本堂の前の石段の所へ蠟燭を
立ててね、冬なのに石段に直に正座して何やう祈つて
るんですよ。夜中の2時ですよ。丑の刻参りかなと思
いましたけど。丑の刻参りですよね、たぶん。あれ、姿
を見うれたら効き目ないんだと思つんですけど。笑
それはある会社の人達でした。会社が傾いて、お参
りに来と、なんですよ。効き目あつたみたいですね。
嘘ですよ。（笑）ただ会社が今もちゃんとあるから……。
先日その会社に仕事頼んだばかりで。電柱立たた
りする会社です。ですから、どううことを祈りに来る
人ね……その時の私の印象、まず第一には不気味だと思
つたのと、それから苦しいんだろうなって後から、きっともう
立ち行かせんんだろうなアと。で、このまま首吊るか、な
んとか資金繰りをしないとなうな、か、どうみち眼れ
なぐで、あそこのお寺へ行ってお参りして、自分に甚吾与
えてね、なんとかお願ひしますよ、やうてね、祈つたんだろ
なアと思いますね。ただどうう祈りってものは、私は否
定しないんですけれども本当に人間というものの宗教性
といふのはどこにあるかと言うと、人間が思ひを叶えるた
めに宗教があるのではなくて、人間といふものをもう一
度目覚ましめる、本当にその人生で良いのかとか、何の
ために生きてるんだ……何のために生まれて来たんだ?
もうすぐ死んで行く身だぞと。本当にそのままいのち



を終えて良いのかと。そういう形で宗教というものが人間を問うんです。ところが現代では世の状態に宗教はいったいあるべきかと。こういうように宗教教団や宗教教義が中心ですけど、宗教を問うようになつてゐるんです。ですから、そういう観点から見て、南無阿弥陀佛という言葉が呪文に陥つてゐるではないかと、こういうことが言つられて來たんですね。それに対して南無阿弥陀佛というものは人間が使う呪文ではなく、といふことは親鸞聖人が厳しく言つておられた。思想的に非常に厳しく言つておられる人間が念佛してうまくことやうと思つても、決してそれは無理だと。元々そういうものではないと。だから南無阿弥陀佛といふのは祈りではせんじだ。人間の祈りではないんだと。むしろ、如來の祈りであって、如來が祈り、人間をなんとしてでも目覺めしめ、人間に生まれて來たことその存在の深さや、いのちの尊厳といふものに頷かしめずにはおかんと、如來がね、私たちに祈りをかけ願いをかける。本願ですね。その本願の名号り、本願の名号、本願が南無阿弥陀佛とう形をとつて私たちに届けられている。そして私たちはそれを利用するのではなくて……利用は出来

ないです。その南無阿弥陀佛のいわれを聞きなさいと。なぜその言葉になつたのか。誰のためにどんな願いがかけられてゐるのか。願いをかけられてゐるのはいったい誰のことかと。そのいわれを聞きなさいと。こういうことでしたので、真宗では特に“祈る”という言葉を使わないので来たんですね。念仏は人間が祈るための道真ではないんだ。むしろ人間を呼ぶ声なんだ。そして呼ばれてはじめて“どうか”と頷かしめられるところ。そこが人間が帰る場所なんだ。こういう訳ですね。もう少し違う角度から申し上げますけれども、私たちは人間といふものを……人間の因縁を延長していくと……人間の思いを叶えていくと幸せになるという、どこかにそういう思いがありませんか？つまり今が不足であるとか、今が苦しいのは思い通りになつていなかつたらどうだ。今思い通りにならなければそれが解決したら幸せになると思ってませんか？ どうですか？ どうでもいいですが、もう。(笑) どうでも良いところはまあまあうまく行つてることです。(笑)まあまあよく行つてると、つき詰めてみると、まあこれ以上望んでもしゃーないと思ってね。だけど本当に満足ですか？ 今死んでも良いですか？ ああ生まれて来て良かったアと。本当に人生といふものは尊いものであったと、昔き



ん有り難う。さようならう
て言えますか？なかなか
言えないと思つてんです。言えると



したら、だいたいもう人間ではなくって
るんでは…。(笑) 凡夫というものは最後まで
どうしたら良いか分からんで悩むものですよ。
ですから私たちはどこかで自分が本当に満足
出来ていなければ、自分の思いが叶えられないと
自分が本当にまだ輝いて生きていなければ
ない。輝きたいですか？もともと生きること
に明るさが欲しいですか？何か生きてい
ることに光が欲しいですか？皆、くすーんだ
顔してますけど。(笑)まあ、どんな風なものが
本当の明るさかは分かりません。有名になっ
たとか、そんなことは本当ではないかもしれん。
もっと内実的なね、生きていることに何かこう、
満足するという、そういうものが欲しいでしょう。
ね。だからどうするとどうしたらそういう風
になれるとかこうこと。大抵は自分に降りかか
そる苦しいこと、じにかかることが決着つ
き、納得いく結果が得られたら、満足いくんで
はないかなあと、どつかで思つて今日までやつてき
たんではですか？毎日毎日このことをなん
とかしよう。うまこと行くようになんとかしよう
と。そつやつて今まで來たんだと思つてんです。

より良い人生を求めて今まで來たんでしょう。皆、知ら
ーん顔してますね。(笑) そんなことないでしょう。より
良い人生を求めないで、悪くなつてやるなんて、そんなひね
くれた人は、いや、です。最後まで捨てられないはとにかく
く自分でよ。自分はなかなか捨てられん。どーしてもう
まくいかなかつたら自虐的になつてでも自分に闊歩り続
けてるのが自分というものです。そうするとやっぱり本当に少
しでも満足が行く人生を送りたいと思って今までやつて
来たんですよ。個人的にもそうですが、人類全体をあげ
てどうでしょ。日本もずっとそういう道を歩んで来て
るんです。ところがそういう人間から発する、人間の思
いを叶えていく道、こういう道を人間が定めた道とう
ことで“邪道”と言ふんですね。この中に祈禱や占いや
そういうものが入ってきます。日の善し悪しが見るんですね。日をみて言つても誰かが決めたんですね。一般
に売ってる手帳を買つとだいたい初めから印刷されてま
す。ねえ、仏滅やう大安やうね、友引やらありますね。(笑)
で、日の善し悪し。それから占い。生まれた月や命名判
断やいろんなものがあります。そういうものを使つて少
しでも幸せになりたいって言うんです。そういうのは親鸞
聖人の頃からある邪道です。現代はもと盛んですね。
私はこういう電話を持つてゐるんですよ。スマートフォン。(笑)
携帯電話のこのなんといふか…(笑) こういう風に動かす
やつね。あれの一番最初にインターネットに繋げようと、
こう押すでしょ。押すとね、最初に出でくるのはヤフーの画面

では、天氣やうと一緒に占いが出てくるんですよ。やったことないんですけどね。そして、この間驚いたんですけど朝、めったにテレビ観ないのですが、テレビをつけたら「今日のラッキースター星座は……」かうてね。えーと、驚きましたけど。昔はやってなかつたですよ。子供の頃からうテレビは観てましたけど、ニュースの時に今日の運勢なんというの無かつたです。最近は毎朝やつてるんですね。そして新聞にも必ず、一月生まれの人の運勢とかね。ちょっと新聞だと私も目が行ってね、エーとか言って観てしまりますけど。「今日はお金の使い方に気をつけた方が良い」……そんなの今日に限らぬでしょ! (笑) まアイイんですけど。今でもそういうのは盛んでよ。でも親鸞聖人の頃には無かった邪道というの、現在では“お金”の世界ですね。お金で幸せになる。お金が無と生きて行けない。お金が無から死んでしまう。で、そのお金である程度の人生を渡して行ける筈だといふ、一つの宗教です。経済は宗教ではないと思つていいけれども、実はそういうものを本尊にしているんじよ。一番大事なのは何ですかって聞くと、高度経済成長からバブルが弾ける頃までは皆、お金だ!って言つてました。現在はバブルが弾けてひどいことになつて、今、お金が一番じゃないんです。アーネストなんかを見るとね、健康が一番だそうですね。その次に家族なんだ、どうで、

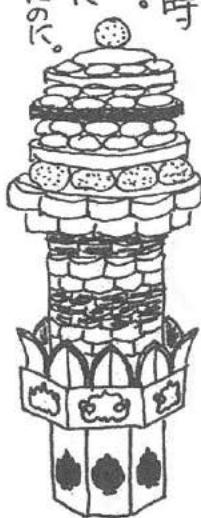


お金はその次みたいですね。お金があつても死んだら終りやちゅうて。やっと少し目が覚めたのかもしらませんがね。ただ健康なら何でも良いから…。健康でまた経済が発展しますからね。ややこしいもんです。だから医学の発展も邪道に入ります。入ります。医学といつもは、その都度の病氣を治す。だけど人生の意味は教えてくれないんです。人間を本当に魂そいつかね、人間の奥底からね、本当に人間であることを領かせてくれないです。今は心を病むとお寺に来ぱりで病院へ行きますね。昔はお寺に来たんです。私も心が病んで、結局お寺に行つたんです。だけど今はちょっと悩むと「ちょっと病んできたかな」と言つて、皆病院へ行つてしまつてね、薬飲んで、深く考えて苦しくてくれる? 来ないか。困つたなア。(笑) お釋迦さんの所や、親鸞聖人の所へ来られて話を聞きたいって言つた人は皆、人生に迷つた人です。そういう人が私たちが抱えるような苦惱を私たちに先立つて苦しんでくださつてね、そこの大切なものをいただいてください。病氣を治すこと大事ですよ。苦しみを和らげることも大事だけれども、それで人間が本当の満足を得られるかって言つたら、無理ではせいでですか?だから別せんです。道が。邪道をじれ程展開していくと人間は満足出来ないってことですね。ちょっとややこしいですかねエ。今までこのやを



生きて来たんです。私も含めて。で、
気がついたらもう一歳ですよ。今
いくつやろおって考えてみると良い人生
を求めるより良い自分のありようを求める
て今まで来たけれども、振り返ってみたら
もう、いったい何だったんだ。喜びもあるたゞ苦しいこと
もあったけれども畢竟してみると(つまるところは)た
だ過ぎて來たにすぎない。あと二つ間の今までの
間だった。夢のどし、幻のどし。ただ過ぎて行
ったではないかと。そうするとこの邪道をもつて苦
しいこと一つでも、それから辛いことの一つでも減らし
て行こうと思ってやるけれども、相対的にあるもの
だから苦しみと樂は。一向に迷ひ苦しみや喜び:
そういうもののなり本当の充実はやって来ない。だから
この道はどこまで行ても、人間が人間に領くことの
無い道だ。人間が勝手に決めているちゃうんで
す。それを“邪”って言うんです。これで幸せになる
やううと勝手に決めておる。どうがそのことで
本当に人間が人間に領くことが出来ずに現
代まで來てしまつた。どうう人間が発想した
幸せといつものは常に理想的で美しいんです。
それが現実になるまで。夢である限り美し
いです。ところがその現実がやつて来てみると本
当に願つてたんだううか、こんな世界を……と言
わざるを得ない。本当に願つてたんだううか、こめ
んや。自分なり良かったんで。

この私の今の人生。一生懸命、より良い人生を求めてやっ
て来たんだけれども、今この私は、こうなりたくてこう
なつたんだろうかと。これが求めて來た、との結果で
あらうかと。本当に何を求めたらいいんだ。そつう
ところにね、この邪道というものが、人間を本当にほ
さえられぬいんだってことが分かります。ですから、祈禱
とこう人間の祈りは、切なゝものですけれども、では人間
の祈りが満たされたう人間は本当に領けるかちう
たら、実はそくしゃなかつたんだってことです。人間の悲
しみとこうは、解かり易いですね。自分の執着する
もり、特に“自分自身”が一番執着しますが、自分
を捨てても助かそほしいとこう、家族やね、近い人。
うちの近所にお相撲さんを目指してた男の子がいて、中
学出る頃には、相撲部屋から親方が來たんです。
それで喜んどつたんですね。ところがその子がね、自転車漕
りいで、ギアとチェーンの間に足が挟まつてね。サンダルで走
つたので指が取れちゃつたんですね。おじいちゃんが急いで駆け付けて、そのままの指持つて病院まで走つたんで
すけど、くつつかない。ギアですからナイフでスパツと切つ
たよつにはいかないですね。そしておじいちゃんが「わ
しの指を切つてつけてあげてくれ。わしの指切つてくれー！」
て、必死になつて言つたんだそうです。そう、おじいちゃん
に聞きました。「あん時は、本当にやつは辛くて。
なんぞ自分でじやなかた



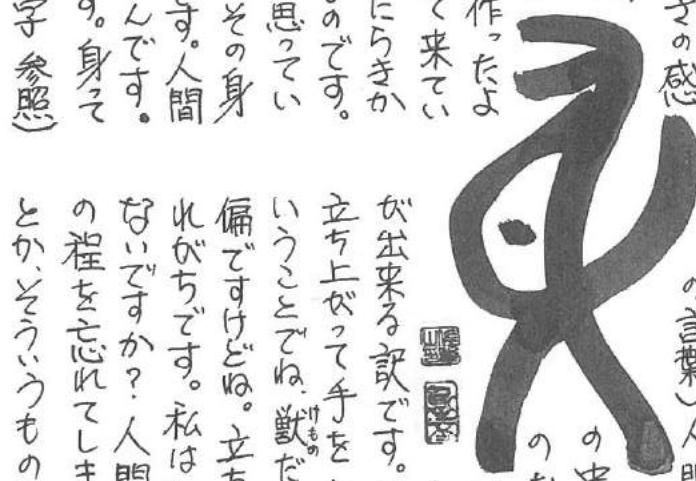


孫の相撲への道は絶たれてしまつた。」と。そういう時に、治ってくれーっていう時に祈りが生ずるんでしょ? 誰でも。そうすると、そこで問題は治つてくれたら満足するということです。じゃあ事件がありたり、震災がありたり、事故がありたり……。ね、あるいは不治の病になつたら「治ってくれー」、あるいは死んだものが、出来ることなら生き返つてくれていいことでしょ? 可能であれば。生き返す欲しいんだ。夢の中でも良いから出て来てくれーとかね。お参りに行くと言われます。会いたい。言葉を交わしたい……。そういう願いに応じて医学も発達させて、死なないよう死なないようにやさる訳ですよ。それは大事ですけども、そういうことで本当に人間の問題が解決するか。人間の問題が成就していくかということ、実はそうではないんではないかということです。死んだものが生き返った。死ななければ良かったのかと。でも必ず死んで行きますね。お互い、病むということも避けられないと。どうするかと。死なないよう死なないようにです。そうすると病むべき身、老いていく身、死すべき身を邪道によつては抑えられない。結局

人間の思ひどりうのは破られてしまう。邪道は敗北するしかありません。むしろ現在はね、IPS(アヤセース)細胞とか、ステラ細胞……あるんだかな、ぐだか……。

あつたとしても、それでうまくいその人から臓器を……もう一回作れるんでしょ? 例えば、目が悪くなつたら体のどんな部分にもなれる一番元の細胞に、目になれちゃうで目にするんでしょ? 自分の細胞を加えてね。肝臓になれて、肝臓にして取り換えるんでしょ。そうするとね、死もなくなるでしょ。早くすれば。頭悪くなつたら頭取り換えるんでしょ。(大笑)腰悪くなつたら腰取り換えるでしょ。どうでしょ? としたらまだ死ぬなくなりますよ。死のうと思つたら自殺するより他なでしょ? 困りますよおく。こうすると本当にそんなど願つてたんだろうかと。生きたりといふ願いの本当のところは何だろう。ただ寿命が伸びると本つたんだどうか。本当に生またいんだといふその内容は、いったい何だろう? ううと、この邪道では決着がつかないんですね。ですから人間の思いを叶えていくようなもの、人間が利用する宗教は人間を救わねばならないだと。ううことです。だから念仏というものをもつて来て、これで助かるかと思ったら助からないのですよ、って言つてゐるんです。今、皆さん、ビックリしたでしょ? 念仏で助かるって聞いて来たんだけどな? おかしなこと言つたな? 今日は、って言って困つたでしょ。(笑)ところが、私が念仏したら助かる筈や。一番最初に、私がついているから駄目なんです。この邪道を決めたのは人間です。神様を作つたのは人間でしょ? 違いますかね。神様ちゃんとを作

そりは人間ですよ。ネコには神様いるのかいなか
いのか…。(笑)うちのネコは拌んでないです。お勧
めしませんもん。お参りもせんです。ただ「ニヤ」と
そ言てるだけ。(笑)ネコは神様を必要としない
存在なんです。人間は迷うて苦しくて、そして自分
の存在の根拠を持つてないから、自分の存在を
受けとめるような大いなるもの、絶対的なもの、人
間を超えたものを必要とするんですね。だから人
間は人間の“必要”によって宗教を生んで来た。だ
けどもその元を尋ねると、人間にどうしてその迷
いの感覚や深い悲しみの感覚や虚しさの感
覚が与えられているんだろうと言ふと、本
当の自分に目覚めたいと“要”が与
えられてるのです。これは人間に与えられ
たいのうちの要”です。そうすると、人間が作つたよ
うなものよりも、もっと人間にはたらきかけて来てい
るものがあったということですね。人間にはたらきが
けて来るものっていふのは自分より深いものですね。
私たちは自分だと思つてゐるこの私。私と思ってい
るのは、たまたまこの身を受けて、そしてその身
を感じてゐるものが“私”というものです。人間
皆さん、身を持つてゐるのでしょうか?この身です。身で
言う字の元はこういう(まん中の象形文字 参照)



■ ■

字なんです。これ何に見えますか?足とお腹と頭があ
るでしょ。手がなんですか?…この字がこう“う”身
とう字になってるんです。これ、人間に見えましたでし
ょ。でも人間にでは変な人間ですよ。ビールの飲
み過ぎかな?。(笑)この“点”は何でしょうか?お
へそかな?。この“身”って言う字はね、お母さんの中
に宿された子供。ここから産まれて来る。だからこれ
は妊娠なんです。人間っていうのは産まれて来るんで
すね。だから身は受けたんですね。(人)身受け難い。
人の身受け難い。「今までに受け」(三帰儀文の最初
の言葉)人間の身といふのは受けとめたもの
の中には、父と母を縁としてお母さん
のお腹の中に生命を受けたんですね。
そして産まれて来て、立ち上がり、たら
が出来る訳です。そしてその人偏を開くと、人”です。
立ち上がって手をこう出しているのが人の特徴だと
いうことですね。獸だと千本足で、図↑こう一つが獸
偏であります。私は私はって生きてしまつ。そうでは
ないですか? 人が私は私はって言った時に身
の程を忘れてしまってね、死ぬ身であるとか、病い
とか、そういうものは身に受けいくものです。その

身をさらしてしまって、まる。ますその身に呼びかえす。
迷いの身だと。病むべき身、老いてるべき身、
死すべき身……。そして空しさを感じるようにな
る。悲しみを感じるようになつて、寂しさを感じ
るようになつて、いつのまゝ願ひがかかるつて、
なつた。そこで、そこにもう一度、人間に呼びかけてく
る、そつとうものがある。人間にはたらいてくるも
のを感覚しているものが、"私"といふ意識です。
だからこの意識よりも深いものを感覚するのです。
まずオーラ。悲しみも喜びも、意識が作るもの
じゃねいじよ。自分で怒れますか? 喜べって
言われて急におかしくなつてくることないでしょ?
どうして悲しみが起ころんですか? 悲しみは嫌
いでしょ。悲しみのは嫌じゃねいですか? 最近たい
ぶ好きになつて来ましたか?(笑)泣きたくなる
時もありますから。悲しいものを見れば見たり
ぬしますね。でもなんでそんな気持ち
になるんですか? どうからその気持ち
が来るんだろ? 悲しみはどうから来るん
だろ? ……と思うと私が生み出したん
じゃなくて、何かを感じて私が寂しい
て受けとめてるんです。そうすると、
人間が思う通りにするよりも人間
に呼びかけて来る方を向く。これが

おがせん

は樂しむものだ。やうのがだいたい現代の発想ですね。私自身は真宗の教えを通して真宗といふのは人間といふものをずっと深く見つめて來たんだなアと云ふことを非常に強く感じています。それは人間といふものはやはり悲しみの存在だと。ただ悲しみのところにね、とても大事なものを感じることができます。その点で悲しみを抱えている点で尊い存在である。ちっぽけなものだけど、そのちっぽけな人間が大きい世界を仰ぐことが出来る。そういう深いものを“いのち”としていただいてあるのが人間だと。こういう風に思ひうのです。で、それがどうしてこういう風にいつのまにか祈りというようなものが人間の中から奪われて行ってしまったのかなアといふことを思ひますと、やはり人間の自己が肥大化しているなってことを思ひます。人間といふものが何故肥大化している。私“いのち”が非常に強くせつります。そして私“いのち”が強くなると、私が大きくなるようだけど、かえって孤独を感じるものですね。不思議ですね。だからどうすると何か大きなものを求めてその中に自分が帰属していくっていう、そういう時代を経て人類が展開してきた歴史があります。最近これを課題に考へてゐるんですがね。産業革命の時に起つた世界的大きな出来事としては、機械による



する工場といふものが、人間の歴史で初めて出来てくるんですね。そして、労働者といふものが発生させるのはほとんどなかったんですね。自分の労働はほとんどなかつたんですね。自分の労働を売つて暮らすていうようなことは、ほとんどなかつたです。ところが工場が出来ることによって、そこの工場に勤めるという形で工場のあるような所へ人々が集つてくるよつになつたのが、第一次産業革命です。何を求めていたかというと、資本家による大量生産。それによる価格の競争ですね。価格を安くして、大量生産して、お金を儲けていくという。大量生産、大量消費、そういうことが始つたのは第一次産業革命の時からです。自らが労働をする労働力として自分を売るという形で自分の生きる道を選ぼうとする人は、たゞいがそれ程食べれぬ人でした。で、農家もね、農業革命があつて小さな農家は皆潰れて、大きな農家に吸収されてしまひました。そして小作という形がとられるようになつた。大きな農家はどんどん膨らんでいくんだけど、小さな所の人は、都会へ労働へ出るようになつていきました。これは今も続いています。大都會ばかりが発展し、人口が増えていくんです。私の町は日本で上から2番目に人口流出率が高いんです。人口減少率が

非常に高いんです。それは死んでるだけではなんないです。若い人が皆出て行ってしまうんです。「どこへ行くんだ」と言つたら、『都会へ行く』んです。職を求めて。だから現代でもそうですが、第一次産業の時代のイギリスの状況でしたら何十年もしないうちに、15倍くらい、都会の人口が増えてるんです。例えば6万人が90万人になる。すごいことですよ。町自体がまたく変化してしまって。そしてそこで労働する時に5歳以下はこれだけの時間とか……ね、そういう頃から働く訳ですよ。一番大きな18歳以下は何時間まで労働。それ以上の労働はやめさせようと、法律が出来たんですね。使い回されて死んでるで、あまりにも悲惨だから、18歳までは一日10時間までにしようとことになったんですね。だから休みはないんですよ。一週間ずっと働いて一日は10時間。だから18歳以上はもっと働かせても良かったんですね。しかも蒸気機械のところで働かせて、それで爆発がいっぱい出て非常に劣悪な環境だったのです。その頃の労働者の平均寿命は38歳です。そういうようなの中に資本主義の市場経済というものが大きなものを求め、大量生産、大量消費、そして大都會といふ流れの中で自然を破壊することと、人間を喰いはじめるっていうことが始まつた時代です。市場



経済が人間と自然を喰うんです。そして市場経済そのものが発展してます。すでに現在は第三次産業革命を経たとか言われてますね。第二次産業革命って言うのは石油と電氣です。それによつて何が出来ようになつたかと言うと、もっと大きな大量生産をする工場が出来るようになって、もっと大きな都会になつていく。さうにシステムが巨大になつて第三次産業革命と云うのは、原子力です。原子力になると世界を経遊ってね、非常に大きなシステムで物が動きます。そうなると、そのシステムそのものがね、人間の手に負えないと、私たち市場をコントロールすることがもう出来ないです。出来ますか? 人間が作ったシステムだけど、人間がすでにコントロール出来ない状態になつるんですね。だから止められないです、これは。そして温暖化や放射能や……しかも人工放射能と、それは、ものすごく厄介なものです。そして兵器も大量殺人が出来る兵器にどんどん発展していく。要するに、人間が求めていく「大き」というものに人間が呑み込まれてしまつて、そこから抜け出しが出来ないです。あんまり大きいと物は見えないです。例えば、ものすごくデカイ象がいたとして壁のようなものがある。これは何だ? と思つても

お見えないんです。全体を見ようと思ったらかなり離れたと見えないです。だからあまりにも大きくて、その中で処理をしていかなければならぬことに、引きずり回されて、その全体はもう誰も見ることはありませんなって……それが現代です。そういう人間が求めているような大いなるものというものはかうして、人間の身のあり方を……人間が生きて、この身といふのは必ず身に応じた世界を見て、ます。身といふのは必ずその環境において生きて、ますからね。環境と“うも”を仮では「土」と言います。世界のことを「土」と言つて、面白い言ひかたでしょ。この世界は、大地、から出来てゐる。大地から生まれて、空が出来て……。どう、世界の中にこの身がある。世界が崩れていったう、身は生きうまい。世界が汚染されたり、身は汚染される。世界が暖かくなそきたう、「土」において、身は生きるんですけど、現在は人間が大なる大量生産、大量消費とうよつねことをやっていく中で、人間は大きくなつたけれども、その身が小さくなつた。こう言ひります。これは現代になつて言つてることで、親鸞聖人がそうなりますよ、って。時代が下がっていくと、人間ていうのは身が小さくなつてしまつ。それから寿命も縮まっていき

ますよ、て。寿命っていうのは単に人間の本当の寿命っていうのではなくて、どれくらいのスパンをもつてのうち生きるかってことです。今は、10年後がもう分からぬです。皆さんはどういう仕事をされてるんですかね。家業のある人は10年後分かりますかね? うちの方は自然の中で漁をしたり、田んぼで働いてる人の方が多いかもしませんが、たゞ、今は兼業になつてしまつますけれどね。でも、そういう人達はずっと昔からつらこの間まで50年後もたぶんその仕事を子供達が、孫達が引き継いでやつてくれる筈だうからうそ、その子らのために50年後に使うための木を植えたりして、いる訳です。ところが今はそういうことが見えないです。さあ、見えてないです。何年ぐらいた範囲にして生きて、るから、うつことが、すごく短かくなつてます。ですから家もね、今は20年もてば良いんだ、うう家を建てるのが基本です。それから、で飽きるんですかね? というよりもまず安い。それから次に20年後に跡を継いでくれる人があるんだから、なんだからうん……。そうすると100年も200年もつとうな良い家は建てなんです。寺の近所の大工さんは非常に悲しいでます。大工さんは良い家を建てたいです。自分が建てて何百年も残ってくれる家を建てたいです。ところが、そういう家は建てさせてもらえない。ボルトで締めるような家ばかりだう



Preaching us,
Staying here right now

です。木と木をぬ、ボルトで締める。
20年くらしあしかもたない。だから
人間の生きている時間がどん
どん短かくなっているんだって言
うんです。そして寿命が短かく
なっていくっていうこと、世界が少
さくなる…。どれだけ大きなものを人間が
作っても、それは必ず崩壊する。どんなデカイビルも
工場も人間が作ったあらゆるものは必ず崩れる時
が来ます。そう思いませんか？必ず崩れる時が来
る。その大きいっていうものは一体なんだんだろ
うなやうって、いうことを思い出すね。人間の求めてい
る“大”と“うものは、非常に暴力的でしかも儂^{わざな}い。
松尾芭蕉が人間の求めたあとにね、そういう大きな
ものが崩れたあとにどうなるかっていうと、また草が生
えるんです。ちっぽけな、生えてきた草の方がむしろ
何か大きな世界を持つてあるんだ。その草がぬ、人間
に説法するんですよ。『夏草や兵^{ひょう}ともが夢の跡』
夏草は人間に法を説いているんでしょ？大きな夢
を果たせば満足すると思うておる人間の儂^{わざな}い
か、愚かさぬ。そしてそれが破れ果てたものどころに
生えてきた草がそれを語つておる。現代とう時代
は人類が初めて経験する大きな時代の曲がり角
です。このまま滅びていくのか、もう一度考え方で人間
が一体何を求めているのか、もう一度考え方で人間



来るのか。もうそんなに時間はありません。産業
革命までのね、ずっと何世紀もの間、地球温暖化
ガスの一一番大きく影響したのは、二酸化炭素と言わ
れますね。産業革命までの数世紀の間は280ppmで
ずっと安定してたそです。それが次第に増えていそ
20世紀に入って、グラフはぐうーと上がります。で今は
434ppmくらいになつてます。これが450ppmになつたらもう、止め
られなくなるそうです。仮にそこで止められたとしても
温暖化は進んで2050年頃には平均気温は2度上が
るんだろうです。そうすると今のような異常気象
ではとてもすまないと言われています。1年に2ppmず
つ農度は増えています。434ppmです。今450ppmを越
えたらもうとりかえしがつかないと言われています。
あと何年です？8年でしょ？8年以内にこの問
題だけでも何とかしなかったら、本当にとりかえしが
つかない環境状況になつてきます。2050年ですから
もういな、やと言わんといでございね。（笑）2050年に
急にそななるんじやないでしょ？どんどん酷くなつて
2050年頃にはとても住むのには適きない環境になつてい
ると言られています。南太平洋の南の海の上にはもの
すごい大きな穴が開いてますし、去年ついに北極の
上にも開いて、今年、北極海に5メートルの波が立た
そいつニースがあつてぬ、ありえぬですよ、氷が張
そそ、そんなに波立つ訳はないですね。温暖化で
氷がどんどん薄くなつて、オゾン層に穴が開いている
ので紫外線が直接入つてくるので、海水温が高く

なるのが早くなっているんだどうですね。そして温暖化は海水温が上がりと水蒸氣の発生率が高くなって湿氣が多くなって、湿氣が多くなると、なあ温暖化は進むんだそうですね。相乗効果的にね。 温暖化のことだけをとってもそうです。そしてこの經濟システムの中では、私たちが山や川やこうこうものをどんどん駄目にしてもしまって、放射能をバラ撒いてしまったりね、それから毎日出すゴミでも大変な量です。今ここにいる人の家庭だけでも年間どれだけのゴミが出るか…。一度数えてみたんですね。子供たちと。今年の夏に本山で子供の会があって。皆の家は一週間に何回ゴミ出しますか?」そ聞いたら、「二回」「一回に何袋出しますか?」って聞いたら「一袋」と言う人と「二袋」と言う人と、皆さんはどうですか? まあ家庭によりますけどね。家族4人以上いると一袋じますまなんじやないですか? そうすると一週間にま、二袋にしてみると月に8袋。一年で96袋。約100袋。一年で100袋。何年生きて来たんですか? それは答えられないか。(笑) その袋の数かける、例えばこの10年だったら 100×10 年。それが一軒分。ここには何軒の方が集っているか…。水俣の緒方さんという人が私に教えてくれたのは、一回皆、自分の玄関の前のこところに一年間ゴミ溜めてみたりといんやつで。恐ろしくて出来



ませんね。それだけのゴミの処理だけでも大変ですよ。今年3月には、ある絵本が発売されたんですね。「世界で一番貧しい大統領スピーチ」と言つても面白本です。人に紹介してもうって面白かったもので、そこのじゅうに紹介してくるんですけど。これは2012年の国連の環境会議でウルグアイの大統領が最後に登場してスピーチしたものが絵本になそるんです。ご存知の方いますか? 誰もいなくて良かった…。(笑) このウルグアイの大統領っていうのが面白い人ですね、この国は南アメリカのブラジルのちょっと下あたり。そこの大統領がね、まず面白いのは大統領官邸に住んで、自宅に住んでて、トラクター一台を持って農業をしてているんですね。「毎日」オルクスワーデンの昔の車を乗つて、運転手もいません。自分で運転して行って、大統領の職務をするんですね。それだけでも面白いですね。そして給料がまるでしょ。その8割を貧困の国民の対策のために使っちゃって、残りの10%を自分の生活費にしてるんですね。私、そのお金を見て、計算してみたんです。日本円でいくらかなって。そしたら月10万円でその大統領は暮らしている。うん、それだけでも面白くないですか? 大統領とこうと黒デカイ車に乗つて、わりにいっぱい黒い服の人だらけね、ビニッヒネクタイして堂々と歩くのが大統領かと思つたらね、国連のスピーチの時も質素な背広着て

ネクタイもしないで出て来てね。ちゅう口の悪い人で隣のエクアドルの女性の大統領の悪口をさかんに言つましたけどね。その人が国連の会議の最後に出て来て、いくつか皆に聞いたんですね。この環境問題をなんとか処理して全世界の人々が貧困から逃がれていくにはどうしたらいいかっていうことを各国の代表がスピーチしたんですけど、その一番最後で……その頃にはほとんどの代表は帰ってしまった。ウルグアイの大統領の話などほとんどの注目もされなかつたんだけども、ます「私たちが本当に願つてることは、いたい何でしょう?」と言つて、そこから始めた。「本当に発展が私たちの願いでしようか? もしそうなら例えは日本人が各家庭で持つてゐる車の台数は何台ですか? その台数と同じだけの台数をインドの7億の人が全員持つたら、その車を動かすだけの酸素が地球にありますでしようか? 私たちが使い捨てにして、いろんなものをゴミにしてるけれどもね、この地球上の70億の人が、日本の生活のよくなことをするだけの資源が地球上にはありますか?」と言つたんですよ。どうですか、ここまで。ありませんよ。すでに現在ですら、地球上のどこまで行ってでも資源を掘りつくしてます。それ

を享受してゐるのは地球上に住む数パーセントの人だけです。そこでさうに聞くんですよ。至上経済のこの大変な競争の中に、子供たちを本当に次々と送り込みたいんですか? 日本でもそうですね。そういうふ至上経済の中には、私たちほどこれからどこまでが仲間で、どこからどこまでがライバルなんでしょう? これは私はちょっとね、自分の胸に響きました。それはうちの町がそうだったからです。20年前に来た時には大聖寺と二つ隣の駅が中心街だったんですね。そこに私の所に勉強を教えてくれつて、う中学生がいて、勉強を教えてあげてたんですね。その子の家は漬け物の屋さんをしてたんですねが、10年前くらいに大きなショッピングセンターが私の住んでる町に2つも出来たんですね。平和堂とイオン系のデオカイのが来て、大きな家電製品を売るチェーン店が3つも入って、その頃は7万人くらいしかいな、町にですよ。そうやっていくうちに大聖寺の商店街はみんなシャッターを下ろしてしまいました。今日、通つて来ましたが、そこの「東中野ギンザ通り商店街」を歩いて来て、懐かしさですね。あいう店はもう一軒も無くなつて、みんなチャックターを下ろすしかなくなつた。そして大きなショッピングセンターへ皆が買い物のへ行く





よつてなったんですね。そしたら、その賣物屋さんもやつてけないということで、仕方ないので、ニヨビニゴセセンターの中に入れば、人も多勢来るから今までよりも売り上げも上がるやろうし、テナント料も払えるのではないかといふことで入ったんですね。ところが思つたよつて売り上げが上がらずに、あと言つ間にテナント料の方が借金になつて、あちこちから借りついたんだけれども、とうとう2ヶ月で店を置むことになつたんですね。借金だけになつてね。私はその頃はお金無かつたんですけどね、うちにまでお金を借りに来ました。そしてお店を置んで、その後仕事を探すけども、仕事が無くてね、その大型ショッピングセンターでカート集めをやつたんですね。でも、そんなのでは家族を支えられなわけです。借金は返せないし。それで朝からお酒の匂いをさせて、何回か会って挨拶したんですけど、それから2年くらいで死んでしまつた。どうやって亡くなつたのは分かりません。で、ちょうどその子が高校に入った年だったけれど、高校を辞めるより他なくて、なんとか伝手を頼りに工場へ行くようになりました。加賀の一等地の田んぼを卖つたのも加賀の人、そして

そこへ買ひものに来るのも加賀の人だし、そこで働いているのも加賀の人。そういう中で彼は追いつめられて死んでいた訳ですね。利用するのも加賀の人。私もそうですね。そこへ買ひものへ行きます。そういうことで、その大統領が言うのは、至上経済の中では、どこからどこまでが仲間で、どこからどこまでがライバルなんだようと。至上経済の中にはもう一人一人が分断されてしまつんですね。だから自分の生きている世界と、うものが分断されていく、そして自然も見えなくなつて、身が小さくなつて、自我が肥大化していくと。そういうことが問題ですね。そういう自我を中心にして世界を見ると、世界は非常にちっちゃいんですね。ちっちゃくて見えないんですね。ところが自我を中心にして見るものつて、一つのは、たゞ一人間はどつかで利用価値とかを考えます。皆さんも接する時に、どのくらい頭を下げていいかを瞬間に判断して、頭の角度が決まるのは、自分の立ち位置を決めたいやすが、ようつにしたいからでしょ? この人ははこのくらい頭を下げておこうとかね。この人はこんな程度でイヤイヤとかね。そういうものの見方で例えば花を見ると、この花を描んであるそこに使おうとか、どういう感覺になつたりする。ところが本当に花を見ることがあるとしたら、じつと花を見る。そうするとね、いつも見てるんだけれども、花が自分に向かって語りかけてくる、つてことがあります。こういう世界がね、実は

志すらしている世界です。大きいものの中失って、それが
てるのはね、こうぢ見て、るもののが実は向こうから語
りかけてくるよつた世界は、山でも川でも太陽でも星
でも月でもね、私たちが「あ、お月さんやな」とって
こう言うでしょ。その時に眺めて、いるのはね、ずっと
とこちらを照らし続いている月に出遇つて、るんで
す。そういうものが失なれているのが現代です。
何も昔に帰れって言いたい訳じやないですよ。昔は
昔で大変なんですかうね。下の子との約束で奈
良に行つたんです。もう3年も前に約束して、その
4年前にも約束したんですが、行けなくて、7年越
して約束を果たしたんですけど、奈良のお寺巡り
に連れて行ってあげたんですよ。そしたら私が20歳
過ぎて迷つて、いる頃に行つた時と全然違つてしま
た。法隆寺の金堂や五重の塔なんかはね、子供と一緒に
一緒に予習して、いたんですね。いつ頃出来て構造
はどうなつてとか、いろんなことを調べて、そして金
堂に入つたんですね。「おお、すごいね」と、なくて
言つて2人で見てたんですね。そしたら団体がどうぞ
ろと入つて来つたんで、横に避けてたんですね。その団体が
過ぎたうえ、5、6人のグレープが來たりして、何
度も避けてたんですね。そして誰もいなくなつて、
又貼り付いて見てたんですね。そしたら係の人が来て
ぬ、「もう動いて出でください」と言つたんですよ。だ
誰もいなじやないですかって言つたう、「来るど邪魔



にならうかうつて。(笑) 今、誰もいなじやないでしょ
と、だいぶ、うづつたうね、ほとんど見たいのなら、一回
出てグエルとおわってからもう一回入つて来てください
と、言うんですよ。炎天下だんだんですよ、外は、で、グエル
と、まつり、だつ、もうそれだけ、汗びっちょりになつて
しまつてね。で、中に入つて又見てたんですよ。で、今度
はどうなるかなつて思つて、チラッと向こう見たらさき
と係員が代りつて(笑) あ、良
かったと思つてね、2人で思つて存
分見て来ましたけど。なんだか
世知辛くなつて、きたなア、なんて
思つましたね。それから薬師寺
の東院堂といつお堂に入つたんですね。
そこは床張りなんですね。1300、1400年くらいう前から立つ
てゐる聖観音といつ仏様があるんですね。で、それ
を2人で一時間以上じっくり見ておつたんですね。その
間にね、沢山の人が入つて出て行きました。沢山の人が、
団体は勿論、一人や二人、三人連れ等、沢山の人が、その
仕方無いとは思ひますが、少人数でも仏様を持んでい
く人が本当にいなじやんです。で、3人4人で來てる、グレ
ープには必ずひとりね、詳しい人がいてね、説明せにや気が
濟まない人がいるんですよ。そして、どの辺りにこの時代
の様式が出ていてね、素材は何で、元はどこにあつたか
で右から見るところ、所が特徴で、聞いてる
人はふんふんと頷き、話してるのは得得としてね、そし

て拝まずに去って行くのです。しかもね、じっくり見
もしない。私は古美術として見ても良いと、され
くらいいふ思つています。祈りの造形としてね。で
も、美術作品を見る時でさえ、絵画展に
行つたとしたう觸るでしょ、暫く。味めぐでしょ
？絵と対峙してね、その絵の心といつものき
感じようとしますわね。通り過ぎたら分か
らんですよ。そんなの。だから仏様の前に対峙
することもな）。本当にただ物見に来ただけです。物見にね。
自分もその一人かなアーッ、なんか思つてしまつてね、子供に「も
う一回仏さんの前に行つてじいと眺めて来てどうん、何か聞
こえるかも知れんよ」と言つたんです。でお寺の方もとに
久く回してね。係の人はお坊さんじやないけど。人を雇つて
どんどん回して行けば良いと思つてゐる。お寺の方もその仏様
を見せものにして食つてるしかねエ。こんなことを言つと怒ら
れちゃうかもしれぬけど。きっとこの聖観音は1300年以上、1400
年近く立ち続けて來たけれど、きっと今の時代は一番悲しい
時代ではないかなあと。誰も拝む者もなく、手を合わせ
ることもなく、ただ自分を物見にして去つて行くではないか
と。その前に座つて悩むことや、自分を省みることもせず
ただ物見をして去つて行くと。一番悲しい時代ではないかな
と思つました。その一時間以上の間で2人だけ、一生懸命
手を合わせている人がいました。その姿を見て、何かホッと
して、ホッとするだけではなくてね、その時に頭に浮かんでき
たのはね、沢山の人があつてきたんだろくなやと。それぞれの
都合を祈つたには違ひなけど、祈らずにはおれんものを抱



れてゐるのだが、やっぱり人間だらうなアと。そこで
思つたのは、六角堂の親鸞聖人でした。六角
堂に籠られたのはご存知でしょ？29歳ま
で20年間比叡山で修行をしたけれども、も
うどうしようもなくて下りて来て、六角堂に
籠られる。私の中では一生懸命ね、救世觀音
様に向かひて、どうか私に道を教えてください
」と祈つてゐる親鸞像が、ずっとあつたんです。
ところがこの前奈良に行って感じたのは、六角
堂に沢山の人があつて、お参りしていくに違ひない
と思つたんです。95日もいたんですけど、毎日
毎日通つたとも言ひますし。そうすると
そこには、必死になつて拝んでる人や、泣きながら
う拝んでる人やね、そういう人たちの姿を
ご覧になつたに違ひないんです。むしろ、そうやつ
て祈らずにはおれなんものを抱えて生きている
人達の姿に何か感銘を受けたね、もう一度、
どんなのちを送るものも、どんな境遇にある
ものも、全てのものを救わすにはおれんと言つて
いる阿弥陀仏の本願を説いてくださつて、
法然上人の教えをもう一度聞き直さなければ
ばならなアと、95日目に、夢のお告げを受け
て、そして夜の明けるのを待つて、法然上人。
所に走つた訳ですね。だから南無阿弥陀仏
と称えるのは、先程は人間の方が祈られて、い

るんだと言いましたが、具体的にどうして阿弥陀仏は人間は祈りをかけ、願いをかけたか。それは人間の悲しみを如来は本当に知っているからです。だから私たちの悲しみは如来の大悲によって、はじめて受け止められていくんだと。何かずっと悲しみの中にはいつ終わっていった人の叫びや、そういうものを受けとめて全ての悲しみの声を受けとめてそれを一人も漏らさず、一つの悲しみの声も聞き逃さず、それを受けて「南無阿弥陀仏」という響きとなつて、私たちにはたらきぬけてくれている。その声を聞いた時に、私たちが忘れていた、いちの轍(轍)の轍(轍)さや、自分の存在を与えてくれている深きをはじめてね、呼び帰される形でいただき直すんだと。実はそういう世の中に非常に稀なる出来ごとが起ころう。そういう場が、こういう場なんだ。お寺というのは、そういう人間にかけられた祈りがそこにおいて聞かれてきた。そういう意味でね、伝えられた祈りの場として、その場の中に私たちは、生きただだいで、おののきをいただいて、その場におどりお育てをいただいていくんだ。あるいは呼び帰され続けていくんだと。本当に生まれてきたことの本当の願いなんだと。本当に念佛を申さねばならぬなど、こうに帰命せよと。南無とうのは帰命です。南無阿弥陀仏の南無は帰命だと。帰れと。この帰れといふ声が聞こえるところが私たちが

本当に帰るところなんだ。そこはこういう祈りの場においてね、はじめて展開していく大事な場だと。場というのは、そやくて人を生み出し、物を生み出すのが場です。住所ではないんですね。「所」ではなくてね「場」なんですね。所って言つたら、ここは中野区上高田二十九です。場所です。場所なんんですけど、その所でいうのが本当にここにおいて何か呼び帰されるもの、ずっとぬ、伝えられて来た、人々の上にはたらき続けて来たいのちの願いに聞くことがあるとすると、そこは祈りの場と言つても良い。願いの場と言つても……お酒呑みに行く所は酒場でしょ? お酒呑みた人が集つて酒を呑むと、ここも酒場になるけど、教えを聞かねばならないということが必ずーーと伝えられて来て、自分が思つてないけれども、「そうだったかあ」と思うことがあるとすると、そこは伝えられて来た祈りの場として、場が成就するんだと。その場において私たちは大切なものをいただきながらおしていくんだと。そういうことでござります。今日はどうも有り難うございました。

(おり)

一〇一四年十月十八日



(文責)
高徳寺住職釋義祐

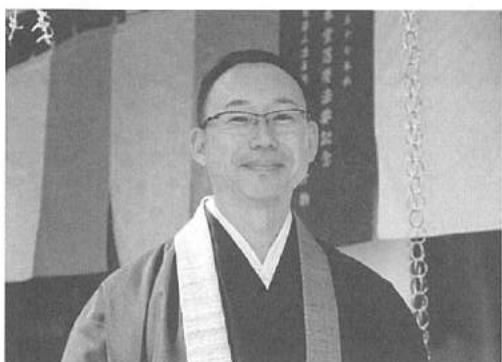


◆ 記念撮影

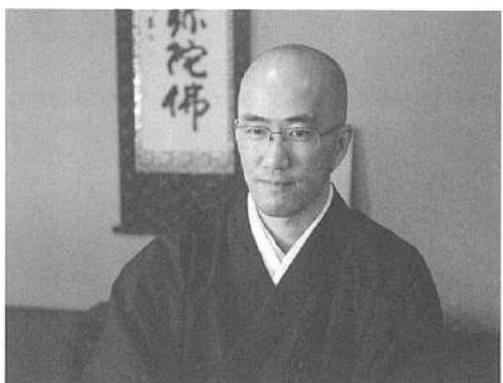
報恩心講ギャラリー



◆ ご法話風景



◆ 住職



◆ 佐野明弘先生



◆ 純米酒“おかげさん”セリティ販売



◆ 前住職と前坊守



◆ お焼香風景



◆ 釋了吾と釋由真

今回も報恩講を有縁の方々とお勤めできましたこと、有ること難しおかげさんでござります。

合掌



◆ ご修復が完了した本堂と柳(記念植樹)

あとがき



今年で三回目となる佐野先生の報恩講での法話。高徳寺の一年をかけた修復が完了し、記念すべき報恩講にふさわしく『お寺・伝えられた祈りの場』という講題で、二時間という長時間に渡るお話を、今回も“ノーカット”でお届けいたします。相変わらず文字の大きさがバラバラで読みづらいことと思りますが、最後まで味わっていただけましたら幸甚であります。

今回も藤井清三様のご厚意によりまして発行出来ましたことをこの場を借りてご報告させていただきます。

釋義祐

発行日 2015.6.18

〒164-0002

東京都中野区
上高田1-2-9

発 行 真宗大谷派 高徳寺

☎ 03-3368-6947

編 集 住職 新井 義雄

FAX 03-3362-8019

ホームページ <http://www.kautokuji.or.jp>